

2015 年度後期授業アンケート結果報告

岐阜経済大学では、授業方法の改善を図るため、年 2 回「授業アンケート」を実施し、その結果を受けた各授業担当者が自己評価を行うこととしています。

2015 年度後期に実施した「授業アンケート」の結果は以下のとおりです。

学科別集計表や各授業担当者による教育自己評価については、大学 web ページ（学内専用）で公開していますのでご覧ください。

ホーム>在学生専用 >授業サポート>授業アンケートの結果公表

2015 年度後期授業アンケート集計結果（全体的特徴）

	2015 年度後期			2014 年度後期		
	教員人数	実施人数	実施講義数	教員人数	実施人数	実施講義数
専任	47 (51)	46	120	49 (51)	47	66
非常勤	60 (62)	53	71	49 (62)	49	62
総合計	107 (113)	99	191	98 (113)	96	128

注) 教員人数欄は、アンケートを実施すべき科目担当者数、() 内は実人数

【属性】（設問 1～設問 2）

アンケートに答えた学生（のべ回答者）の内訳は、次表のとおり

学部学科別人数・構成比				学年別人数・構成比		
学部	学科	人数	構成比	学年	人数	構成比
経済学部	経済学科	833 名	16.9%	1 年次	1992 名	40.3%
	公共政策学科	521 名	10.5%	2 年次	1433 名	29.0%
経営学部	スポーツ経営学科	2649 名	53.6%	3 年次	1110 名	22.5%
	情報メディア学科	886 名	17.9%	4 年次	290 名	5.9%
科目履修生・交換留学生・聴講生		54 名	1.1%	5 年以上	55 名	1.1%
計		4943 名	100.0%	科目等履修生他	46 名	0.9%

延べ回答者数 / 延べ受講者数 = 回答率

4,943 / 7,535 = 65.6% (前回 : 65.1%)

今年度より、1 人 1 講義以上を選択実施する方式を改め、原則全講義（ただし、専任教員は、演習、語学、体育実技を除く）実施することとしたため、前年度後期に比べ 63 科目もの大幅実施増となっている。これにより、学生が選択できる授業について全て評価結果を開示することとなり、授業選択の参考として利用することができるようになった。

設問 3. 【板書】

○板書については、「分かりやすい」と回答した割合が 41.8%(39.1%)で若干ではあるが前回に比べ増加している。「分かりにくい」と答えた 9.4%の者は、板書について「字が小さい」、「字が汚い」、「丁寧でない」、「書く量が多い」、「黒板を消すタイミングが早い」との指摘を記述欄に記している。

ホワイトボードの使用は、反射して見えないなどの指摘もあった。

また、板書ではないが、パワーポイントデータのプロジェクター投影についても、「配色が悪いと見えない」、「字が小さい」、「背景で見にくい」、「スライドの切り替えが速い」などの指摘があった。

設問 4. 【話し方】

○教員の話し方についても、「分かりやすい」が 58.7%(56.8%)、「わかりにくい」と答えた 8.5%(10.8%)ともに前回に比べ良い結果となっている。

「わかりにくい」と答えた者の具体的理由としては、「聞きとりにくい」、「しゃべるのが早い」といった記述があったが、「静かなので聞きやすい」といった記述などから、教室の静かさとの関係も大きいようである。

設問 5. 【授業の進め方】

○学生が理解できているかを確認する工夫として、毎回具体的選択肢を設定しているが、今回は特に「学生との問答がある」30.5% (27.8%)、「前回の振り返り」28.6% (24.6%)の割合が前回よりも高くなっている。小テストの実施を含め、そうしたことにより理解が深まって良いとの記述も多数あり、授業満足度を高めるための手段の一つであると言える。

「質問に対する適切な回答」10.6% (10.7%)などほぼ前回どおりの割合で実施されている実態を確認できた。「ほとんど一方的だった」と答えた割合は 11.6%(17.0%)と減少しているが、特にスポーツ経営学科では 15.6%とやや高くなっている。

設問 6. 【授業環境】

○教室内の授業環境については、全体の約3分の2、68.0% (68.7%)が「常に静穏」であると回答している。「私語や携帯電話の使用が常にある」との回答が 4.8%(4.3%)であったが、記述部分には、「私語や途中退席は集中できないので注意して欲しい」、「私語や携帯使用の学生には厳格な処分をして欲しい」など教員の対応を求める声が多くあった。最後の設問「良かったと思われる点」でも、「私語、携帯電話の使用に対する取締りが厳しく良かった」などと「静かな授業」を評価する回答が非常に多くあることから、真面目に授業に取り組みたいと思う学生のためにも静穏な環境を整える必要がある。

ただし、総じて受講者数が多い授業において私語が多く騒がしい状態であることが自由記述欄からも読み取れるため、さらに相関を分析し複数クラス設定するなど適切な対応を考える必要がある。

設問 7. 【授業の予習・復習】

○今年度から、予・復習をどの程度行っているのか大よその時間数で回答させることとした。1時間以上と回答した者はわずか10.1%(8.7%)であったが、前回よりも若干増えており、「ほとんどしない」の割合も59.8%(64.6%)と減る結果となった。若干改善したとはいえ、相変わらず授業の予習・復習をして理解を深める習慣が備わっていない者が多いといえる。学科別には、スポーツ経営学科は予習・復習をしていない割合が65.7%(71.3%)であったのに対し、情報メディア学科では51.9%(52.4%)、経済学科53.9%(61.3%)、公共政策学科57.2%(61.7%)と、前回どおり学科による差異がみられた。

中教審の「学士課程教育の構築に向けて」(答申)に対応し、シラバスの項目として時間外学習の内容や目安時間を掲載しているが、自主的な学習が行われていない現状から、さらに具体的な課題を出すなど勉強を習慣づける工夫が必要であるといえる。

設問 8. 【授業の難易度】

○授業の難易度は、「理解できる」42.8% (36.6%)、「十分に理解できる」29.0% (30.7%)をあわせた71.8%(67.3%)が授業を理解できており、前回は上回る結果となったが、それでも「やや難解」23.6% (26.1%)、「難解すぎて理解できない」4.6% (6.6%)など大よそ教室内の3割弱の者が理解できずに授業を受けていることになるため、授業の進行にあたって学生の理解度を確認する工夫が必要であるといえる。

設問 9. 【授業満足度】

○授業の満足度は、「満足も不満もない」が24.2%(23.8%)で、「まあまあ満足」36.7%(31.8%)、「非常に満足」33.3% (35.2%)をあわせた「概ね満足」者は例年どおり7割、「やや不満」3.6% (5.1%)、「非常に不満」2.1% (3.7%)を合わせた「不満」者が5.7%(8.8%)がやや減る結果となった。

学科別には、経済学科76.1%と情報メディア学科75.1%で「概ね満足」の者の割合が高くなっているが、前回同様スポーツ経営学科では65.3%(62.9%)にとどまっているため、満足感を決める要因が何であるかをさらに探る必要がある。

設問 10. 【良かった点、改善してほしい点 (抜粋)】

<良かった点>

- ・提出レポートを評価して返してくれるので励みになる
- ・熱心に教えようとしてくれる、明るい表情で授業をしてくれるのが良い
- ・レジュメが穴埋め式になっていて理解が深まった
- ・指名して答えさせるので緊張感があって良い
- ・企業の方など外部の方の話が聞けて良い
- ・体験談や具体例で説明があり理解しやすかった
- ・毎回、小テストを行うので復習にもなった
- ・グループワークがあって他の人の意見と自分を比較することができ良かった
- ・DVDなどの映像を使った授業が楽しく学べた
- ・質問に分かり易く答えてくれた

<改善してほしい点>

- ・先生が遅刻をしてくる 時間どおり始めて欲しい
- ・出席のとり方が公平でない
- ・遅刻者や途中退室者を厳しく注意してほしい
- ・受講者が多過ぎ騒がしい
- ・感情的な口調で話されたりバカにしたような注意があると気分が悪い
- ・授業に関係の無い話が多い
- ・重要なことは黒板に書いて欲しい
- ・レジュメを読めば理解できる
- ・授業の進行が早すぎる ゆっくり進めて欲しい

以 上